



2024年2月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年1月11日

上場会社名 株式会社 吉野家ホールディングス
コード番号 9861 URL <https://www.yoshinoya-holdings.com>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河村 泰貴
問合せ先責任者 (役職名) グループ財務経理本部長 (氏名) 石原 浩晃
四半期報告書提出予定日 2024年1月12日
配当支払開始予定日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
TEL 03-5651-8800

(百万円未満切捨て)

1. 2024年2月期第3四半期の連結業績(2023年3月1日～2023年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第3四半期	138,892	11.3	6,101	209.8	6,573	10.6	4,338	24.9
2023年2月期第3四半期	124,742	9.9	1,969	41.1	5,941	46.4	5,776	6.1

(注) 包括利益 2024年2月期第3四半期 5,393百万円 (22.7%) 2023年2月期第3四半期 6,976百万円 (4.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期第3四半期	67.07	
2023年2月期第3四半期	89.32	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年2月期第3四半期	113,168	60,103	52.7
2023年2月期	108,230	55,603	50.9

(参考) 自己資本 2024年2月期第3四半期 59,621百万円 2023年2月期 55,111百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期		5.00		5.00	10.00
2024年2月期		8.00			
2024年2月期(予想)				8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年2月期の連結業績予想(2023年3月1日～2024年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	181,000	7.7	6,800	98.0	7,100	18.8	3,700	48.9	57.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 社 (社名) 、 除外 1 社 (社名) 花丸餐飲管理(上海)有限公司
(注)詳細は、添付資料P.8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P.8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年2月期3Q	65,129,558 株	2023年2月期	65,129,558 株
期末自己株式数	2024年2月期3Q	433,124 株	2023年2月期	449,491 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年2月期3Q	64,689,835 株	2023年2月期3Q	64,673,378 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2023年3月1日から2023年11月30日まで)の経営成績は、売上高1,388億92百万円(前年同期比11.3%増)、営業利益61億1百万円(前年同期比209.8%増)、経常利益65億73百万円(前年同期比10.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益43億38百万円(前年同期比24.9%減)となりました。

国内事業の売上高は、新型コロナウイルス感染症(以下、感染症)の規制緩和に伴う人流の増加によって前年同期を大幅に上回りました。各事業が「客数増加」に向けた販売施策を展開するとともに、外部環境の変化による追い風を受けました。9月以降も季節に応じた商品施策の展開に加え好天にも恵まれ、既存店売上高が好調に推移しました。海外事業の売上高は、中国およびアセアン地区の既存店売上高の回復によって前年同期を上回りました。中国は政府のゼロコロナ政策の転換による人流の増加によって、既存店売上高が回復しました。また、国内事業、海外事業ともに出店および改装を積極的に進めました。

コストについては、政府による光熱費の負担軽減策の支援もあり、売上高上昇による変動経費の増加を適切に管理しました。一方で、光熱費および物流費の上昇見込みや原材料費の継続的な上昇など依然として先行きは不透明な状況が続いており、食材ロスの低減や適正な経費コントロールに引き続き取り組んでいます。

セグメント概況につきましては、次のとおりです。

[吉野家]

売上高は935億43百万円(前年同期比10.8%増)となりました。

増収の主な要因は、既存店売上高が伸長したことと外販事業が堅調に推移したことです。当連結会計年度においては、「客数重視」をテーマに、引き続き新規顧客の獲得および既存顧客の来店頻度向上に取り組んでいます。商品施策として、「鉄板牛カルビ定食」「鉄板牛焼肉定食」「焦がしねぎ焼き鳥丼」「牛皿麦とろ御膳」「牛麦とろ丼」「冷汁」「親子丼」「牛黒カレー」「牛ハヤシライス」「牛すき鍋膳」「牛すき丼」を販売しました。販売施策として、「牛ポ!ウルトラ大作戦」「肉だく半額祭」「お子様割」「から揚げ祭」「W定食・W弁当100円引き」「吉野家の達人牛ポ!ドンドンまつり」「牛井並盛テイクアウトキャンペーン」「朝活クーポン配布」を展開しました。加えて、顧客利便性向上の取組みとして、店内およびテイクアウト注文タブレットの導入、テイクアウト専用受取窓口の設置店舗拡大などの積極的な機能強化を図りました。また、デリバリー対応店舗は1,046店舗(前期末+35店舗)となりました。外販事業では、1993年に販売を開始した「冷凍牛丼の具」の新規顧客の獲得に向けた「30周年記念キャンペーン」の最終企画として「お歳暮ギフト」「福箱セット」を販売しました。セグメント利益は原材料費を中心としたコスト上昇に対し、10月に主力商品の価格改定など機動的な施策の展開に加えて、増収と適正な経費コントロールにより58億71百万円(前年同期比35.3%増)となりました。同期間は46店舗を出店し15店舗を閉鎖した結果、1,228店舗となりました。新サービスモデル(クッキング&コンフォートおよびジグソーカウンター)店舗への転換状況は、14店舗を出店し64店舗を改装した結果、377店舗となりました。また、新たな出店戦略としてテイクアウト専門店を25店舗出店した結果、34店舗となりました。

[はなまる]

売上高は219億29百万円(前年同期比16.2%増)となりました。

増収の主な要因は、感染症の規制緩和に伴う人流の増加に合わせて、季節に応じた商品施策と来店頻度向上を喚起する販売施策を展開したことです。加えて、長引く残暑により冷たいうどんの販売が好調に推移したことで、既存店売上高が大幅に回復しました。当連結会計年度においては、新規顧客の獲得と既存顧客の来店頻度向上を目的として、商品の磨き上げと店舗運営力の強化に取り組んでいます。商品施策として、「あったか担々うどんフェア」「濃厚つけ麺フェア」「2種類のサラダうどんフェア」「夏の冷やし担々フェア」「旨辛椒(うまからしょう)フェア」を展開し、「牛すきぶっかけ」「牛すきうどん」を販売しました。販売施策として、「かけうどん100円引きセール」「春の天ぷら定期券」「公式アプリリニューアル1周年記念クーポン配信」「シン・仮面ライダーフェア」「秋の天ぷら定期券」を展開しました。加えて、テイクアウト、デリバリー需要の獲得に向けた取組みも継続して行い、デリバリー対応店舗は278店舗(前期末+9店舗)となりました。原材料費や光熱費の上昇の影響を強く受けましたが、増収により吸収し、セグメント利益は前年同期と比べて16億9百万円増加し14億42百万円となりました。同期間は5店舗を出店し21店舗を閉鎖した結果、429店舗となりました。

[海外]

売上高は201億83百万円（前年同期比6.9%増）となりました。

増収の主な要因は、中国の既存店売上高の回復およびアセアン地区が回復基調にあることです。中国は前期に政府の感染症拡大防止に向けた厳格な措置の影響を受けましたが、ゼロコロナ政策からの転換により人流が増加したことで既存店売上高が回復しました。また、上海では新たな出店戦略に基づき出店を進めました。アセアン地区は人流の増加によって既存店売上高が回復基調となり、インドネシアを中心に出店を進めました。アメリカは引き続き顧客ニーズを捉えた新商品の導入や効果的な販売施策を展開しました。原材料費や光熱費上昇の影響を受けましたが、増収により吸収し、セグメント利益は17億66百万円（前年同期比85.7%増）となりました。同期間は82店舗を出店し51店舗を閉鎖した結果、994店舗となりました。なお、海外は暦年決算のため1～9月の実績を取り込んでいます。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、次のとおりです。

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ49億38百万円増加し、1,131億68百万円となりました。これは主に、現金及び預金が26億38百万円増加したことと、建物及び構築物（純額）が24億51百万円増加したことによるものです。

負債総額は前連結会計年度末に比べ4億37百万円増加し、530億64百万円となりました。これは主に、未払法人税等が13億30百万円、支払手形及び買掛金が12億12百万円、リース債務（固定）が11億97百万円それぞれ増加した一方、長期借入金が29億11百万円減少したことによるものです。

純資産は前連結会計年度末に比べ45億円増加し601億3百万円となり、自己資本比率は1.8%増加し52.7%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年2月期の連結業績予想につきましては、2023年10月11日に公表いたしました連結業績予想から変更していません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	24,234	26,873
受取手形及び売掛金	6,131	5,889
商品及び製品	3,112	3,519
仕掛品	55	61
原材料及び貯蔵品	4,220	4,810
その他	6,076	3,724
貸倒引当金	△166	△155
流動資産合計	43,663	44,722
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	22,160	24,611
使用権資産（純額）	5,390	7,010
その他（純額）	11,574	11,935
有形固定資産合計	39,125	43,558
無形固定資産		
のれん	1,222	1,171
その他	1,943	1,732
無形固定資産合計	3,166	2,903
投資その他の資産		
投資有価証券	2,408	2,550
差入保証金	11,032	11,074
繰延税金資産	2,128	2,413
その他	6,998	6,265
貸倒引当金	△293	△320
投資その他の資産合計	22,274	21,983
固定資産合計	64,566	68,445
資産合計	108,230	113,168

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,756	5,969
短期借入金	1,650	1,650
1年内返済予定の長期借入金	8,887	7,461
リース債務	2,408	2,222
未払法人税等	151	1,482
賞与引当金	1,085	631
役員賞与引当金	7	2
株主優待引当金	263	438
資産除去債務	221	126
その他	8,961	10,511
流動負債合計	28,394	30,497
固定負債		
長期借入金	13,706	10,794
リース債務	6,956	8,153
退職給付に係る負債	245	243
資産除去債務	2,690	2,778
その他	635	597
固定負債合計	24,232	22,567
負債合計	52,626	53,064
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,265	10,265
資本剰余金	11,365	11,357
利益剰余金	35,548	39,046
自己株式	△548	△530
株主資本合計	56,630	60,139
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10	16
為替換算調整勘定	△1,493	△496
退職給付に係る調整累計額	△36	△37
その他の包括利益累計額合計	△1,519	△518
非支配株主持分	491	481
純資産合計	55,603	60,103
負債純資産合計	108,230	113,168

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)
売上高	124,742	138,892
売上原価	44,080	49,171
売上総利益	80,661	89,721
販売費及び一般管理費	78,692	83,619
営業利益	1,969	6,101
営業外収益		
受取利息	67	153
受取配当金	0	0
賃貸収入	331	272
持分法による投資利益	-	58
助成金等収入	3,662	-
雑収入	697	605
営業外収益合計	4,759	1,090
営業外費用		
支払利息	314	251
賃貸費用	187	225
持分法による投資損失	68	-
雑損失	217	142
営業外費用合計	787	618
経常利益	5,941	6,573
特別利益		
固定資産売却益	368	408
受取補償金	209	175
関係会社株式売却益	1,821	-
出資金清算益	102	-
特別利益合計	2,501	583
特別損失		
固定資産売却損	-	1
固定資産除却損	-	90
減損損失	429	401
関係会社株式売却損	60	-
関係会社整理損	48	-
契約解約損	23	18
特別損失合計	562	511
税金等調整前四半期純利益	7,880	6,645
法人税、住民税及び事業税	1,378	2,467
法人税等調整額	706	△204
法人税等合計	2,085	2,262
四半期純利益	5,795	4,382
非支配株主に帰属する四半期純利益	18	43
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,776	4,338

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)
四半期純利益	5,795	4,382
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	5
為替換算調整勘定	1,059	968
退職給付に係る調整額	△2	△2
持分法適用会社に対する持分相当額	116	39
その他の包括利益合計	1,180	1,011
四半期包括利益	6,976	5,393
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,935	5,339
非支配株主に係る四半期包括利益	40	54

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

当社の特定子会社であった花丸餐飲管理(上海)有限公司は、2023年8月24日に清算手続きが終了したことに伴い、当第3四半期連結会計期間末より連結の範囲から除外しています。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしています。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しています。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っています。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしています。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	吉野家	はなまる	海外	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	83,671	18,734	18,882	121,288	3,453	124,742	—	124,742
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	783	145	—	928	937	1,866	△1,866	—
計	84,455	18,879	18,882	122,217	4,391	126,608	△1,866	124,742
セグメント利益 又は損失 (△)	4,340	△166	951	5,125	△23	5,101	△3,132	1,969

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社12社を含んでいます。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,132百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,180百万円、セグメント間取引消去172百万円及びのれんの償却額△123百万円が含まれています。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	吉野家	はなまる	海外	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	92,764	21,785	20,183	134,733	4,158	138,892	—	138,892
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	779	143	—	922	935	1,857	△1,857	—
計	93,543	21,929	20,183	135,656	5,094	140,750	△1,857	138,892
セグメント利益	5,871	1,442	1,766	9,081	205	9,286	△3,184	6,101

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社12社を含んでいます。
2. セグメント利益の調整額△3,184百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,309百万円、セグメント間取引消去172百万円及びのれんの償却額△47百万円が含まれています。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。